

平成 30 年度 第 1 回難波宮跡整備計画検討委員会議 要旨

1 日 時 平成 30 年 6 月 14 日 (木) 午後 13 時半から 16 時半

2 場 所 大阪歴史博物館 第 1 研修室

3 出席者

難波宮跡整備計画検討委員会議委員 (7 名)

中尾委員、八木委員、増淵委員、國下委員、弘本委員、加我委員、前川委員 (欠席: 足立委員)
大阪市教育委員会事務局総務部 植木文化財保護課長、佐藤主任学芸員、田中学芸員、河嶋係員 (4 名)

大阪市建設局公園緑化部 合田部長、竹野調整課長、黒瀬課長代理、安藤係長、玉作係員 (5 名)

大阪市経済戦略局文化部文化課 岩槻博物館担当課長代理 (1 名)

大阪府都市整備部事業管理室 野口副理事、金澤事業企画課主査 (2 名)

大阪府都市整備部都市計画室 池田室長、井上公園課長、加藤課長補佐 (3 名)

大阪府府民文化部都市魅力創造局 企画・観光課 橋本参事 (1 名)

大阪府教育庁文化財保護課 原田副主査 (1 名)

4 内 容

[議題]

(1) 旧NHK敷地の市場調査の結果について

(2) 「史跡難波宮跡保存活用計画」(案)、および「史跡難波宮跡整備計画」(案、骨子)の検討

[議事要旨]

初めに委員や事務局の出席者で史跡難波宮跡の視察を行った。その後、植木課長の開会挨拶ののち、座長に中尾委員を選出して議事に入った。

まず、事務局から議題 (1) について説明。

平成 30 年 3 月に 2 回目のマーケットサウンディングを行った結果、最終的に 6 案が寄せられた。引き続き、より魅力のある事業提案の可能性を追求する。今後、史跡保存活用計画を策定したうえでそれに沿った形で募集条件の詳細検討を進める。

各委員からは、事務局が説明した 6 案について、

- ここがかつて難波宮という宮殿のあった特別な場所であることを意識すべき。
- 当該地を一般的な「公園」とみるなら、暫定的に提案のような事業をするのは可能だが、「歴史公園」とみるなら今回の 6 案はふさわしいのか、慎重に検討してほしい。
- 大阪城公園、難波宮跡公園、大阪歴史博物館の結節点としてふさわしいガイダンス施設や便益施設が必要である。
- 市民や来訪者にとって有益な歴史の情報発信が必要で、もっと提案できるものがあるのでは。

といった、難波宮のもつ歴史的な意味を重視する意見や慎重さを求める意見が出された。

事務局からは、今回は出てきた提案を紹介したという状況であり、史跡保存活用計画を策定しながら、それと整合するように検討を進める、という説明があった。

次いで事務局から議題 (2) を説明。

昨年 10 月に開催した前回の委員会議での意見をふまえて修正した。次回 3 月の会議では内容をかためて成案として提示したい。

各委員からの意見で、主要なものは以下のとおり。

- 史跡の本質的価値について、記述の整理が必要。
- 本質的価値について、大都市の中心部にこれだけ大きな範囲で広く遺跡が確保されていることがきわめて貴重だという価値づけをすれば良いのでは。
- 最初の指定、2 次指定・・・とあるが、最近の 7 次指定の東方官衙地区まで指定の意義を明

確にしておくべき。単に宮殿本体だけでなく、その周りに広がる地区も追加指定して保存してきたということが大事。

- ・指定地外の遺構を史跡の本質的価値に準じる要素に含めると混乱しないか。むしろ、史跡の価値をさらに高める要素が周辺に多く残っており、それを一体化して扱う視点が必要と、別に項目を立てたほうが良い。
- ・「現状と課題」では、課題を現状と分けて明記したほうが良い。
- ・遺跡の歴史を記述する際に、近代も含めて視野に入れるべき。

事務局からは、こうした意見をうけて保存活用計画（案）を修正し、3月の委員会議で再度提示して完成を目指す、という今後の予定が示された。